

巻頭言 「待つ喜び」

宇野 元

アドベントは「待つ」とき。小さな子どもたちは、クリスマスを待つ喜びをいきいきと示してくれますね。

楽しい飾り付け、今年のプレゼントへの期待…… 成人したかつての子どもたちもクリスマスを真心からお祝いしたいものです。

アドベントは「待つ」とき。マリアとヨセフは、天よりの約束を受けて、救い主の誕生を待ちました。そして今、私たちも聖書の言葉と共に待つ者とされています。救い主の再臨を。

思えば、私たちの世界には、主イエス・キリスト誕生以後も、真の故郷と呼ぶことのできる場所がありません。ゲーテが言った「時よ、止まれ」と思える素晴らしい体験をたくさん贈られていても。抛り所をもたない私たちは、確かな約束を必要としています。

今見ていないものへの憧れは、イエス・キリストが来られたことで、一層強められていると言えるでしょう。何を待っているかが明確になったからです。私たちは礼拝で告白する使徒信条の内容が、余すことなく示されるのを待っています。罪のゆるし、体のよみがえり、永遠の命が、より具体的に、目にみえるかたちで示されるのを。使徒パウロが、まだ肉眼では見えない中で待つ豊かな喜びを語ってくれています。「わたしたちは、このような希望によって救われているのです」(ローマ 8, 24)。将来の啓示を待つ歩みにおいて、意味深い高価な時ははじまっています。

2018年のアドベントの時、子どもたちがするように、約束の言葉を暗記する機会にできるでしょう。御言葉が一人一人の心にあり、喜びになりますように。たとえば、イザヤ書に次のように語られています。

地が開いて、救いが実を結ぶように
恵みの御業が共に芽生えるように。
わたしは主、それを創造する。

イザヤ書 45, 8